

いのある線や軽やかな線、多様な色使いによって画面が生き生きと構成されていました。どの作品からも、子どもならではの視線や強い思いが伝わってきます。3年生の会長賞に選ばれた作品は、グレーの濃淡による背景や、リズムよく並ぶ青いシート、見上げる子どもたちの表情、試行錯誤の跡が残る夜空の表現が印象的です。いつもとは違う、特別な時間への高揚感がよく表れています。4年生の作品の選定では難しさを感じる場面もありましたが、結果として選ばれた作品はいずれも独自の視点が伝わるものでした。筆づかいや画面構成など、それぞれに工夫が見られます。例えば研究会賞のりんごをもぎ取ろうとする場面を描いた作品では、葉が茂り枝が交差する構成や、植物の瑞々しさを感じさせる色使いに独創性があり、線表現が多い中で特に印象に残る作品でした。

自分の感じたことを大切にすることは、すべての学びの出発点です。その意味で、感性から始まる造形表現の探究は、子どもたちにとって大切な経験だと思います。一方で、今日の子どもたちは、私たち大人が経験してきていないような、日常的に多くの視覚情報に触れながら表現活動を行っています。だからこそ、指導者を含む大人は、教える立場にとどまるのではなく、表現する子どもとともに探究していく姿勢が求められているのではないのでしょうか。その点において、新潟県中越教育美術展は非常に大きな意味をもつ展覧会だと思います。特に、多くの先生が審査に関わり、展覧会そのものを一つの作品のように作り上げていく姿が印象的でした。多様な子どもたちの声としての造形表現を学校教育の中に位置づけ、長年にわたり本展を支えてこられた先生、関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。